

角田市の現状・特徴

自然特性

- 雪も少なく東北地方の中でも温暖な気候
- 豊かな自然環境
- 貴重な自然環境
- 令和元年東日本台風では、阿武隈川その他河川による氾濫被害

居住者特性

- 人口は減少傾向
- 出生数の低下により少子高齢化の進行が顕著
- 人口集中地区の人口密度は低下傾向にあり、中心市街地の集積の低下が顕著

産業特性

- 流入超過で従業地としての役割
- 就業者の流入・流出は、実数・割合とも減少傾向 ⇒ 生産年齢人口減少の影響
- 学生数は減少傾向（少子化）で、流入（通学者数の減少が顕著）
- ※就業者の流入は、柴田・丸森・大河原、流出は柴田・仙台・丸森・大河原

土地利用の特性

- 阿武隈川が南北に貫流、流域に肥沃な耕土
- 緑豊かな山地に囲まれた盆地上の地勢
- ・都市計画区域は約 25%
- ・森林と農地が都市全体の 70% ⇒ 自然環境保全地域、緑地環境保全地域が指定
- ・宮城県平均に対し、工業系の用地地域指定割合が高い ⇒ 38.4% > 宮城県平均 24.5%

経済特性

- 一人当たり市民所得は県平均の約9割
- 最近10年の民間事業所数及び従業者数は減少傾向 ⇒ 事業所は卸売・小売・宿泊・飲食サービス業、建設業で約 50%
- 電機・自動車部品メーカーや日用生活用品等製造販売の企業が立地し、宇宙航空研究開発機構のエンジン燃焼実験等、多様な産業集積による生産拠点
- ・丸森からの買物先として流入が見られ、最寄品の購入先としては市内が9割弱であるが、買回品は名取・大河原の商圏に含まれる。

時代の潮流・環境の変化

- SDGsを踏まえた持続的発展
- ICTやSNSの活用によるコミュニケーションの変化
- 近未来技術によるイノベーション（スマート自治体への転換）
- 地域特性を活かした交流機能の拡大

- 人口減少・超高齢化・少子化の進展による社会ニーズの変化
- 大規模災害や感染症問題の発生
- 財政制約のもとでの優先施策の推進

事業所ヒアリング等調査

- 自然災害、感染症のほかリスク情報についても情報共有して欲しい。（学校からの情報も含む）
- 人材の確保が課題となっている。
- 角田高校への入学者の減少が続けば、いずれ学校がなくなり、若者が地元に戻らなくなる。
- 角田市の医療を支えているのは民間医療機関であり、市の人的・経済的支援が不可欠である。
- 市街地の商業集積が弱く、店舗が分散しているため、シナジー効果を生みにくい。
- 行政は、新たな農業の担い手づくりに積極的でない。今後の農業振興の在り方を示して欲しい。

都市比較調査

【10年前との比較】

- 安心度 44.7 ⇒ 45.1 (+0.4)
- 利便度 57.2 ⇒ 54.4 (▲2.8)
- 快適性 54.8 ⇒ 49.6 (▲5.2)
- 成長力 43.1 ⇒ 37.6 (▲5.5)
- 裕福度 47.8 ⇒ 45.2 (▲2.6)

- 待機児童が少なく、公共施設の整備状況が相対的に高いため、「利便度」が宮城県、全国平均よりも高い。
- 「安心度」「成長力」「裕福度」は、周辺7市町、宮城県、全国と比較して最も低い。（柴田町、大河原町の交通軸上の都市集積のほか、沿岸部の復興投資による影響が考えられる。

求める
角田市の姿

市民意向（アンケート調査）

【主なアンケート結果】

- 暮らしやすい：61.1%
- 住み続けたい：60.4%
- 行政全体に対する満足度：34.0%

【重点プロジェクトの評価】

- 「交流人口 100 万人都市への挑戦」は、施策の効果が最も高いが、重要度は最も低い。
- 「定住人口3万人の確保」は、最も重要度が高い。
- 「戦略的産業振興」は、優先課題となる項目が多い。

【優先課題指標郡（重要かつ不満）】

- 公共交通システムの充実
- 災害に強い防災体制の整備
- 地域医療体制の充実
- 子育て支援の推進
- 安定した雇用の創出
- 交流情報の発信 など

市長トップインタビュー

【第5次長期総合計画について】

- 人口減少や財政状況の悪化により厳しさを増す中で、令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症の拡大等の影響により、市民の不安が高まっており、行政全体への満足度が低いことは真摯に受け止めなければならない。

【幸せを感じるまち】

- 物質的な豊かさよりも心の豊かさを大切に
- 子どもたちが住みよい環境を提供したい
- 縮小する社会の中でも「ここに暮らしたい」「ここに子どもたちを住ませたい」と思えるまち

【所信表明における5つの重点目標】

- 命を守り豊かに育む安心安全なまちづくり（防災・減災、地域医療、公共交通）
- 子どもたちとともに、生きる力を養う、ひとづくり（少子化・子育て・教育）
- 連携を強める（国、県、自治体間、地域）
- 地域産業の振興（産業支援、持続可能な行政経営）
- 地域活性化（スポーツと健康、グリーンツーリズム、情報発信）

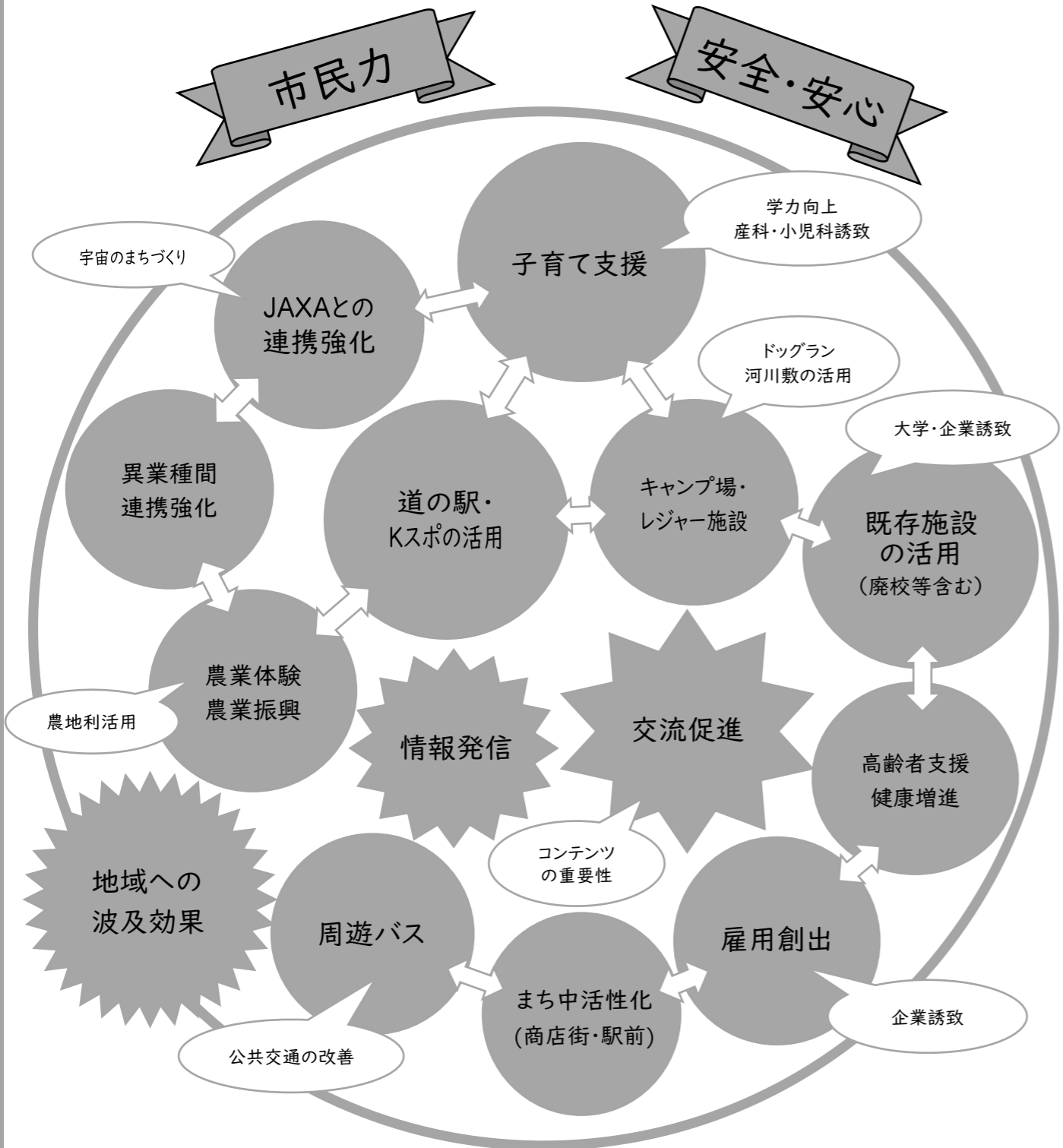
（市職員）施策評価

- 第5次長期総合計画に掲げる施策のうち、市職員が今後の方向性が高いと評価した施策

- ①少子高齢化、人口減少への対策
- ①地域の課題の整理、サポート体制の整備
- ①道の駅・K スポ等の連携、観光機能の強化
- ②道の駅を活用した 6 次産業化の推進
- ②企業誘致活動の推進
- ③子育て施策の充実
- ③地域医療体制の充実
- ④基礎学力向上のための取組の推進
- ④今後の文化・芸術活動の在り方の検討
- ⑤防災・減災に係る施策の強化
- ⑤公共交通システムの再構築
- ⑥財政健全化（新規施設整備の抑制）
- ⑥市民の声を反映させた行政経営の実現

かくだワークショップ ~企画書・将来像まとめ~

求める
角田市の姿



◎: 地方創生にも関連する取組

子育て支援の充実

- ◎子どもの遊び場の整備
- ◎学力・教育環境の向上
- ◎働く場所の確保
- ◎JAXAと連携した特徴ある教育
- ◎男女共同参画社会の定着

医療体制の充実

- ◎産科・小児科の誘致
- ◎周産期医療の確立
- ◎人口減少に対応するための地域包括ケアシステム・地域共生社会の確立

【子どもを産み育てやすいまち】

地域活性化

- ◎市民のポテンシャル・市民力を発揮できるまちづくり
- ◎駅前・まちなかの活性化
- ◎JAXAとの連携強化
- ◎廃校の利活用
- ◎サードプレイス

【通勤・通学しやすいまち】

【住みよいまち 働きやすいまち】

公共交通・インフラ整備

- ◎阿武隈急行の存続・利便性向上
- ◎デマンド型タクシー・周遊バス等の地域交通の再検討
- ◎学校統廃合によるスクールバス運行
- ◎インフラの維持・更新

産業振興

- ◎企業誘致活動の推進
- ◎農業振興(ビジョンの明確化)
- ◎道の駅・Kスポの活用
- ◎JAXAとの連携強化

【角田市へのアクセス改善】

防災・減災

- ◎東日本大震災・令和元年東日本台風の被災経験を教訓とした防災・減災の取組強化

持続可能な行政経営

- ◎経常収支比率改善
- ◎稼ぐ市役所の推進
- ◎公共施設の適正管理

【豊かな市民生活の基盤】

都市像

